

項目		説明
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	骨髄異形成症候群における造血幹細胞移植前化学療法(Preconditioning intervention：PCI)の臨床的意義の検討
	研究対象者	骨髄異形成症候群と診断された患者さんのうち、2020年7月から2026年6月までに神奈川県立がんセンターで同種移植治療を受けられた方
	研究目的	高リスク骨髄異形成症候群(MDS)における唯一の根治的治療法は同種造血幹細胞移植ですが、移植前に芽球を減少させるための化学療法を行うべきかどうかは結論が出ていません。移植前の芽球割合が移植成績の重要な予後因子であることは明らかですが、腫瘍の性質として化学療法に対する反応の良い群が移植前の芽球割合低値群に含まれているというバイアスを示している可能性もあり、移植前の化学療法を支持する根拠にはなりません。そこで本研究では、前処置へ連続するよう行われる移植前化学療法(Preconditioning intervention:PCI)に着目し、骨髄異形成症候群におけるPCIの有効性を検討することを目的としました。
	研究方法	神奈川県立がんセンターのみで実施される診療録および診療科データベースを用いた後方視的データベース研究。診療録やデータベースから、患者データを収集し、統計学的手法により移植前化学療法の移植後成績との関連性を検討します。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号(識別コード)で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西 暦 2 0 2 6 年 9 月 1 4 日 ～ 西 暦 2 0 2 9 年 3 月 3 1 日
	利用又は提供を開始する時期	[✓]総長が研究実施を許可した日 [] 西暦 年 月 日頃(研究の進捗によって前後いたします)
利用する試料・情報の項目(チェック[X]が入った項目を利用します)	[] 試料:	[] 血漿、[] 血清、[] 全血、[] 末梢血から抽出した DNA、 [] 病理検体(具体的に記載: _____)、 [] 尿、[] 糞便、[] 唾液、[] 胸水、[] 腹水、[] 脳脊髄液、 [] 毛髪、[] その他(具体的に記載: _____)
	[X] 情報:	[X] 診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[X] 年齢、[] 生年月日、[X] 性別、[X] 既往歴、[X] 併存疾患、[X] 外来日・入院日・退院日、[X] 臨床検査値、[X] 放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[X] 臨床所見・経過(予後追跡データを含む)、[] ゲノムデータ、[X] 看護記録、[] その他(具体的に記載: _____)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	所属・氏名 血液腫瘍内科 竹下 陽介
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口		神奈川県立がんセンター 血液腫瘍内科 竹下 陽介 045(520)2222(代表) 利用停止のお申し出は2026年11月15日までお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります